

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 24 日現在

機関番号：37125

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25463415

研究課題名(和文) がんの先端医療を受けている患者への支援システムの構築

研究課題名(英文) Construction of support system for the cancer patients who have advanced medicine

研究代表者

田村 眞由美 (Mayumi, TAMURA)

聖マリア学院大学・看護学部・講師

研究者番号：00506272

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：先端医療を受ける患者は、高額な医療費や受療施設の限定など、身体・精神・社会的負担が大きい。先端医療であるがんワクチン療法を受けている患者の生活を支えQOL向上に寄与できる患者支援システムの構築を目的とした。

がんワクチンを受ける患者を対象として、質的、量的研究を行った。患者は治療を受けている安堵を体験して今を生き、患者の体験を援助者全員と共有することが支援上必要であるとわかった。またSOC(首尾一貫感覚)やQOLの観点から、患者の身体・心理的の変化を定期的に確認し、患者が望む治療を継続できる状況を整えることの重要性もわかり、先端医療を受ける患者への支援システム構築の基礎資料となった。

研究成果の概要(英文)：Cancer patients who are receiving advanced medical care have lots of difficulty in physical, mental and social problems as well as economical issues, since health insurance usually do not cover the advanced medical care and only receive the care in a small number of hospitals.

Aim of this research project is construct support systems for the cancer patients receiving advanced medical care. Data were collected by questionnaires and semi-structured interviews from the patients receiving cancer vaccine therapy. They felt relief and vital by the therapy. It is important that all medical stuffs related to the patient share patient's experiences in their words. From the point of view of SOC and QOL, periodical assessments of patients' physical and mental changes are important. We also have to make appropriate conditions in which they can continue to receive the therapy. These information are useful to construct support systems for cancer patients who are receiving advanced medical care.

研究分野：がん看護

キーワード：先進医療 患者支援システムの構築 がんペプチドワクチン SOC QOL

## 1. 研究開始当初の背景

がんは2人に1人が罹患する国民病となっており、がんの先端医療に対する国民の期待はきわめて大きい。しかしながら、先端医療の多くは保険医療の適応外であり、自由診療として実施されている。このため、患者はがんによる身体的・精神的苦痛に加え、経済的負担などの多くの問題を抱えている。久留米大学医学部では1998年よりがんペプチドワクチンによるがん治療を行っている。

本研究代表者は2000年よりがんペプチドワクチンの開発に関する基礎研究に関わっており、『HCV1b+HLA-A24+患者の細胞性・液性免疫システムに認識されるHCV1b由来のペプチドの同定』などの論文発表をするとともに、看護師でもある研究代表者はがんペプチドワクチンの臨床試験に携わるリサーチナースとして患者のケアにもあたり、ワクチンを受ける患者の身体・精神的側面からの支援をテーマとして研究を行ってきた。近年、医療環境の変化によりがん患者が抱える問題も変化していることに着目した。これまでに、久留米大学におけるがんワクチンの臨床試験は1000人以上の患者に行われ、2009年からはがんワクチン外来が開設されて、自由診療によりがんワクチンを受けることが可能となっている。進行がん患者の延命効果やQOLの維持などの効果が認められ、2010年にテラーメイドペプチドワクチン療法は前立腺癌患者の一部を対象として「高度医療(第3項先進医療)」の承認を受けた。しかし、自由診療でがんペプチドワクチンを受ける場合の患者の負担を鑑みると、治療に掛る費用は1クール(6~8回投与)でおよそ60~80万円であり、県外からの受療者では交通費や宿泊費の負担も大きい。航空機を使用して受診している患者や、治療継続のために住居を移転した患者などもあり、自由診療での受療が可能となった現在、がん患者をとりまく治療の現状として、患者の持つ問題は身体・精神面のみならず社会的

面も含み大きく変化してきている。

平成24年度、「がんペプチドワクチンを受けている膵臓がん患者が望む支援」というテーマで、先端医療のなかでもがんワクチンを受けている膵臓がん患者・家族が体験している困難と患者・家族が望む支援を明らかにすることを目的として研究を開始した。有効な標準治療がなく治療を模索して、先端治療であるがんペプチドワクチンを受けようとする患者のSOC(Sense of Coherence、首尾一貫感覚)にも着目し、「患者のSOC(Sense of Coherence、首尾一貫感覚)に関する文献レビュー」という題目で論文も発表している。

## 2. 研究の目的

先端医療であるがんペプチドワクチン療法を受けている患者の生活を支えQOL向上に寄与できる患者支援システムを構築する。

がんペプチドワクチン療法を受けている患者が抱える問題点を調査し、その解決策、支援策を看護の視点に立って明らかにする。

患者・家族への支援システムを構築する。

## 3. 研究の方法

研究対象者はA大学がんワクチンセンターで先端的治療であるがんペプチドワクチンを受ける患者とした。

調査の方法は、半構成的面接と質問紙調査の両方を採用し、半構成的面接を実施した質的研究と質問紙調査の結果を統計的に分析した量的研究を併用した。質的研究では、看護領域では初めてであるTAE(Thinking At the Edge)を用いた分析を行った。

## 4. 研究成果

1) がんペプチドワクチンを受ける膵臓がん患者8名の状況の把握。

日本がん看護学会学術集会で発表すると共に日本がん看護学会誌に投稿しており、掲載が予定されている。がんの先進医療である

がんワクチン療法を受けている患者の語りを分析し、患者の体験を言葉として表現した。対象は、ワクチン治療を受けるまでの「これまでががんばった」道のりを淡々と受けとめ、がんの治療を受けている安堵を体験して今を生きており、これからを見据える気持ちになっていることが明らかになった。がんの先進医療を受ける患者の支援として、患者の思いを言葉として表し、患者の体験を援助者全員と共有することが患者・家族を支援する上で必要であることがわかり、支援システム構築の基礎資料となった。

2) がんペプチドワクチンを受けるがん患者 24 名の QOL と SOC との関連について調査、分析。

H26 年 6 月から H27 年 1 月の間、がんペプチドワクチンを受ける、胃がん、肺がん、肝臓がんなどの患者 24 名に対して、治療の前後の 2 回、QOL (Quality of Life) と SOC (Sense of Coherence、首尾一貫感覚) について、半構成面接と質問紙調査を実施した。治療前の状況については、H26 年 3 月に日本がん看護学会学術集会において「がんペプチドワクチンを受けるがん患者の SOC と QOL」として発表した。

また、治療前と後の SOC および QOL 得点を統計的に比較、分析し、H27 年 11 月に韓国ソウルで開催されたアジアがん看護学会において「QOL of cancer patients who choose vaccine therapy and influence factor」のテーマで示説発表を行った。

Gender	Male	12	50%
	Female	12	50%
Age	Total	64.6±9.8	years
	Female	64.9±10.3	
	Male	64.0±9.3	
Address	Prefecture	9	37.5 %
	In Kyushu	7	29.2%
	Outside Kyushu	8	33.3%
Professional situation	Unemployed	13	54.2%
	Part-time job	4	16.7%
	Full-time job	7	29.2%
Diagnosis	Lung cancer	11	45.8%
	Stomach cancer	7	29.2%
	Esophageal cancer	3	12.5%
	Liver/Biliary cancer	3	12.5%

QOL (activity)	QOL (total)
.387*	.393**
Mann-Whitney test      ** p<0.01 * p<0.05	

がんワクチンを受ける患者の SOC は既存の研究結果である一般男女の平均に比べ高く、自分の困難を乗り越えようとしていることが伺えた。SOC と QOL 全体および SOC と QOL の下位概念のうちの「活動状況」に関連が見られたことから、「適格基準をクリアし、ワクチン治療ができる身体状態にある」ことで、がんとの共生が可能な状況であることを実感しているためと考えた。遠方から通院する患者ほど SOC が有意に高かったことは、距離的負担のある治療に対処していることが、自分にとって意味のある治療であると実感しているためと考えた。がんワクチンを受ける患者に対しては、SOC の観点から患者をアセスメントし、首尾一貫感覚を維持向上できるよう、身体的側面のみでなく心理社会的側面からも援助を行うことが重要であり、患者の身体・心理的 QOL の変化を定期的に確認しながら、患者が望む治療を受けることができる状況を整えていくことが必要な支援となると考えた。先端医療を受ける患者・家族への支援システム構築に向けた援助の一つとして、患者の身体・心理的 QOL の変化の定期的な確認のもと、患者の背景に合わせて治療継続への支援をしていくことが必要であることが明らかになった。

### 3) 論文投稿

学会発表の成果をふまえて、「自由診療によりがんペプチドワクチンを受ける膵臓がん患者の体験」というタイトルで、日本がん看護学会誌へ論文投稿した。査読を受け、H28 年 6 月現在最終版を準備中である。

### 4) 先進医療を受ける患者・家族への支援の現状の把握

平成 27 年 7 月現在、一応確立した治療法であるとされる第 3 項先進医療技術 (先進医療 B) を実施している施設の、がん患者への支援の状況について、がんの免疫療法を中心に情報収集を行った。がん免疫療法は 4 種類で、のべ 24 施設で実施されていた。免疫療

法を中心に検討したが、がんの先端医療を受ける患者への看護援助は十分とはいえなかった。A がんワクチンセンターでは、HP 上に「患者さんのお悩みコーナー」として、免疫療法を受ける患者からの質問に詳しく回答していた。先進医療を受けているために現われる心理、社会的問題を把握し、看護の視点で患者への経済相談や生活上の助言等を行う必要がある、今後の取り組みが必要であることがわかった。

以上のように、本研究代表者は先進医療であるワクチン治療を受ける患者・家族の現状把握を深めることはできているが、先進医療への施策などがん患者を取り巻く状況が変化していく中で、患者・家族への具体的な援助を行うシステムの構築にはさらなる研究が必要である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

田村真由美、末次典恵、自由診療によりがんペプチドワクチンを受ける膵臓がん患者の体験、日本がん看護学会誌 (掲載予定)

〔学会発表〕(計 4 件)

田村真由美、がんの先進医療を受ける患者援助の現状 - 免疫療法に関する情報を中心に -、第 30 回日本がん看護学会学術集会、2016.2.20、幕張メッセ (千葉県)

田村真由美、末次典恵、由谷茂、QOL of cancer patients who choose vaccine therapy and influence factor、2015.11.20、ソウル (韓国)

田村真由美、末次典恵、がんペプチドワクチンを受けるがん患者の SOC (Sense of Coherence、首尾一貫感覚) と QOL、第 29 回日本がん看護学会学術集会、2015.2.28、パ

シフィコ横浜 (神奈川県)

田村真由美、末次典恵、がんペプチドワクチンを受けている膵臓がん患者が望む支援、第 28 回日本がん看護学会学術集会、2014.2.8、新潟コンベンションセンター (新潟県)

〔図書〕(計 1 件)

末武康弘他編集、田村真由美、末次典恵、金子書房、質的研究法入門、2016 年、総頁数 335 頁 (担当部分 302 頁 - 313 頁)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

田村 真由美 (TAMURA MAYUMI)

聖マリア学院大学・看護学部・講師

研究者番号：00506272

(2)研究分担者

由谷 茂 (YUTANI SHIGERU)

久留米大学・がんワクチンセンター・准教授

研究者番号：20279160

山田 亮 (YAMADA AKIRA)

久留米大学・先端癌治療研究センター・教授

研究者番号：50158177

末次 典恵 (SUETSUGU NORIE)

佐賀大学・医学部・講師

研究者番号：60363355

(3)連携研究者

( )

研究者番号：